

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック

京都御苑の魅力を発信

京都御苑



NEWS

Kyoto Gyoen
National Garden
News

winter

冬

第154号
2022.12.1

京都御苑ニュース

CONTENTS

- ▶ 京都御所、御苑に想う
- ▶ 御苑の樹木の冬支度
- ▶ 御苑境界そぞろ歩き 樂美術館
- ▶ 学生コラム 一京都大学大学院地球環境学堂—
- ▶ Information



京都御苑の冬四景。左上から時計回りに京都御所建礼門、冬鳥ジョウビタキ、清水谷家の棟、ソシンロウバイ冠雪

平安京遷都後、京都は千年以上に渡り天皇がお住まいになる「御所」を有する日本の都であった。明治維新により天皇とともに都は東京へと移り、御所を囲んでいた公家屋敷街一帯は公園化され「御苑」となった。現在では国民公園京都市御苑として京都市民や国内外から多くの観光客が訪れる場となっている。(一財)国民公園協会の理事でもある(株)聖護院ハツ橋総本店代表取締役社長の鈴鹿且久氏に身近な存在であった京都御所や御苑に対する想いを語っていただいた。

京都御所、御苑に想う

鈴鹿且久

私たち京都に長年居をかまえる者は、あの丸太町から今出川、烏丸から寺町までの一帯すべてを「御所」と呼んでおりました。囲いのある本来の御所のことは、「小御所」と呼んでいた覚えがあります。いつのころから、私の中で御所と御苑を識別したのでしよう。

幼少の頃から、父に御所は天皇さまのお住まいであると聞かされておりました。天皇さまとは身分は違えども、こうして近くに居住される場所があるということで、常に近くにいらつしやる存在のように感じておりましたし、今もその気持ちは変わりがありません。よく京都人は、「都は京都であり天皇陛下は東京にちよっと滞在されているだけ」と認識していると言われます。私の父も、亡くなるまで陛下のお帰りをお待ちしていた一人でした。

京都御苑の思い出は、幼い頃から

数多くございます。母が病弱で、よく父の自転車に載せてもらい御所（御苑）に行き、一日中走り回っていました。忙しい父とこうした時に一緒に居られたことが幼心にとてもうれしく、今でも大切な思い出となっております。夏の暑い日にも緑が揺れ、さわさわと風を運んできてくれる。だんだんと紅葉が進み冬が近づくと、沢山のどんぐりと落ち葉に夢中になれる。冬が過ぎ少しづつ暖かくなれば、さまざまな花が春の訪れを告げ色を添える。思えば一年を通してこのように自然を身近に感じることが出来る地が街の真ん中にあるというのも、贅沢なことなのか

もしれません。

少し大きくなると、グラウンドで野球をするようになりました。当社には野球部がありまして、練習と遊びを兼ねてソフトボールをしています。「とらや」さんや「豆政」さんのチームと、暗くなるまで親善試合を楽しんでいました。ふと脳裏によぎる子供時代の思い出は、振り返ると御苑での風景が多いようです。

今は八ッ橋を商っておりますが、私どもの家系である鈴鹿家は、もともと神職の家であります。平安京建都後、神宮祭主を経て、西伊勢鈴鹿よりお召しにより、吉田春日社神官として吉田の地に千百年少々住ま



京都仙洞・大宮御所と大文字山

いしております。御所神祇官として賢所に奉職しておりました。明治時代初期までは、大嘗祭・新嘗祭の折に大役を勤めさせていたいております。現在吉田の地にある吉田神社は、平安遷都の六十五年後に藤原氏の氏神である春日社を祀った神社です。戦前まで、仙洞御所や桂離宮・修学院離宮の御宮においての例祭・祈年祭のご神授に奉仕しておりました。こうした繋がりもあり、恐れ多くも天皇陛下や御所とはご縁を感じておりましたが、数年前、吉田忠嗣国民公園協会京都御



京都御苑 黒木の梅

苑会長よりご推挙をいただき当協会理事に就かせていただくこととなりました。大変名誉なことでありましたと同時に、より深いご縁を頂戴したことに感謝をいたしております。引き続きこれまで通りの気持ちで、今後ともご皇室の御隆盛と御繁栄を願ひ、御所を取り巻く御苑をも護るべく勤めさせていただきます。これからの京都に生きる子供たちにとつても、御所と御苑が、私たちが過ごした当時と同じように「当たり前」にそこに在る」ように。また、天皇陛下のお住まいが身近なところにあり、温かいお心を自然と感じられるように。さらに、過ごしやすく包み込んでくれるような自然豊かな姿がいつまでも続くことを願っております。

（株式会社 聖護院八ッ橋絵本店
代表取締役社長
一般財団法人 国民公園協会 理事）

▼御苑と周りの自然とのつながり——生態系のネットワーク——▲
御苑の樹木の冬支度
早くから備えるのが秘訣です！

片山雅男



紅葉の御苑：黄・紅葉は落葉樹の冬の水分欠乏に対する危機管理

冬、京都御苑の動植物の多くはその活動をやめて、厳しい冬をひっそりとやり過ごそうとしている。目立った変化も少なく、自然観察には厳しい季節でもある。そこで、今回は御苑の樹木がどのような方法で冬支度をしているのかを探ってみることにしよう。

秋が深まると、御苑は一年で最も艶やかな季節を迎える。イロハモミジやヤマザクラは真紅の葉をつけ、イチヨウは黄色、ナラ類の葉は橙や褐色に染まり、マツやモミの緑を添景に落

葉までの一刻を楽しませてくれる。この落葉樹の黄・紅葉は最もわかりやすい冬支度である。それではなぜ、落葉樹は秋に落葉するのだろうか。幼い頃の教育は重要で、誰もが「冬が来て、寒くなるので葉が枯れ落ちる」と思い込んでいる。しかし、実際は少し違っているようだ。冬になると樹木の根は伸長を止め、根毛量が激減する。そのため、吸水力が低下し、樹木は危機的な水分欠乏に陥ってしまう。これを回避する苦肉の策が落葉現象なのである。

一方、カン類やシイなどの常緑樹は葉の表面をクチクラ層で覆っているため水分欠乏が回避され、冬も緑の葉を付けていられる。ただ、氷点下の寒風に曝されると葉の水分が凍って枯れてしまう。そこで、秋になると、光合成で作った糖分を徐々に葉に蓄え、氷点下でも葉が凍らない



トチノキの冬芽：粘液ですきま風をシャットアウト

樂焼四五〇年の伝統の軌跡を 観じる美術館

稲垣裕美子

樂焼は、天正年間（一五七三〜九二）半ば頃、樂家初代長次郎が茶聖千利休の「わび茶」の理想に叶うものとして赤樂・黒樂茶碗を生み出したことにより誕生します。以来四五〇年変わることなく樂家歴代は、利休と長次郎による「わび茶」の精神性とともにも樂焼の伝統と技術を現代に伝えてきました。



油小路通に面する樂美術館玄関

そんな樂焼窯元・樂家に隣接しております。樂美術館は、収蔵作品のほとんどが次代の参考

になるよう制作の糧となるようにと樂家歴代が残してきたものです。そして、歴代はこれらの作品を通して樂焼の伝統を学び、それぞれ時代にあった独自の作陶世界を築いていきます。まさに樂家の軌跡が詰まった美術館なのです。現在開催中の展覧会「利形の守破離―利休形の創造と継承―」では、樂歴代の代表的な作品が一堂に会するため、それぞれの時代によって个性的で創造性に富んでいることに驚き



長次郎 黒樂茶碗
銘万代屋黒 利休所持
万代屋家伝来 文叔宗
守・啐啄齋箱書付



第一展示室

ます。しかしそのいずれの作品にも利休と長次郎が目指した「わび茶」が内在しており、樂家の伝統の奥深

さが感じられます。また次回展覧会では、新春展として「春の歳時記―樂のおもてなし―」と題し、樂歴代が樂焼で表現された「春」をご紹介します。

京都御苑にお越しの際にはぜひ弊館にも足を延ばし、樂焼四五〇年の伝統の軌跡を観じていただけたらと存じます。

（公益財団法人樂美術館 学芸員）

■樂美術館
京都市上京区油小路通 一条下ル
油橋詰町八七番一
電話・075-4141-0304
開館時間・10時〜16時半
休館日・月曜日（祝日は開館）

学生コラム

京都御苑は、自然と文化が満ち溢れる場

京都大学大学院地球環境学学
研究員 王 聞

2022年5月、京都御苑において京都大学の野外実習「京都の自然と文化を活かす」（担当：深町加津枝准教授）が開催された。参加者は異なる学部の学生5名で、皆御苑を訪れるのは初めてだった。

京都市景観政策課担当者のお話を聞きながら現地を見学した学生たちは、「近衛邸跡の糸桜や凝華洞跡の青紅葉、林立する松、公家屋敷跡やその庭園の遺構の配置にはそれぞれの意味があり、奥深い」「東山の山稜や送り火が遠望でき、遠くの山並みを眺める御苑の荘重な雰囲気を感じた」と語っていた。また、御苑の一部にある石垣と外周林について、「御苑の独特な雰囲気を感じさせるだけでなく、市街地の建物や騒音を遮蔽・遮断する役割もある」と感じた学生もいた。

御苑緑地の多様な機能、随所に潜む歴史文化を知れば、普段では考えられない多様な視点から改めて御苑の魅力を感じ、今以上に御苑を楽しむことができるだろう。本野外実習に参加し、京都御苑に関する自然と文化に対する私の追求心に火が付いた。



御苑での野外実習参加者たち
（閑院宮邸跡収納展示館前にて）



ハクモクレンの冬芽：大切な花芽には暖かい毛皮のコートを！

ようにして冬を乗り切っている。もう一つ、樹木の冬越しでは冬芽を作ることも重要である。冬芽は未熟な葉や枝、分裂組織を寒さから守る装置である。京都御苑に多い常緑樹のウバメガシやアラカシ、落葉樹のコナラやクヌギなどは芽鱗（葉や托葉、葉柄などが変化した鱗状の葉）を幾重にも重ねて寒さを凌いでいる。さしずめ十二単のような重ね着である。出水の小川の東にはトチノキがあり、数枚の芽鱗が重なった冬芽を付けている。その表面は粘液で覆われていて、密閉状態が保たれている。まさに、隙間風を防ぐ目張りである。



裸芽：はせず、アジサイの特別な対策はせず、臨機応変

このような冬芽の多様性は、樹木が個々の成長様式に合わせて進化してきた結果であり、冬芽は小さな存在ではあるが、樹木の冬越しにとって大きな意味を持っている。

京都御苑の樹木の用意周到な冬支度は、過去の地球の気候変動や生育域の拡大への対策として絶え間ない試行錯誤を行ってきた努力の賜物である。その成果を愛でながら、今日の急速な地球温暖化にあたっても対応してくれることを願ってやまない。

（京都自然観察学習会／
神戸教育短期大学名誉教授）

■ イベントのお知らせ

京都御所の通年公開

公開日：通年(事前申し込み不要/無料)
ただし、下記は休みとなります。
月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)
行事等実施のため支障のある日

公開時間：12～2月/9:00～16:00(入場は15:20まで)

入場門：御所清所門

アクセス：御苑北西角 乾御門より(地下鉄今出川③出口 市バス烏丸今出川 徒歩8分)

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215



京都御所 紫宸殿

京都仙洞御所の参観

事前申し込みに加えて当日受付も行われています。

当日受付：京都仙洞御所にて11時頃から先着順に整理券を配布(満員になり次第終了)。
当日受付枠は13:30、15:30。
各時間とも定員は10名。

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都迎賓館一般公開

日本の歴史・文化を象徴する京都で、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。

公開日：迎賓館のホームページでご確認ください。

参観料金：大人 2,000円 大学生 1,500円
中高生 700円

参観受付：清和院休憩所

お問合せ：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2301

京都御苑 自然ふれあいイベント

京都御苑 冬の自然教室

日程：令和5年1月開催予定。

内容：冬の御苑で見ることのできる生き物を観察します。
※詳細は決まり次第ホームページなどでお知らせします。



モズ



自然教室の様子

■ 苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館/京都御苑総合案内所

京都御苑南西角の閑院宮邸跡に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構です。展示室では京都御苑の歴史や自然をVR映像などで学べます。また京都御苑の総合案内所として、マップや苑内の見どころなど旬の情報を提供。

開館時間：9:00～17:00 (展示室は16:30まで)

休館日：年末年始 ※展示室は月曜日閉室

アクセス：御苑南西角 間之町口すぐ(地下鉄丸太町①出口 市バス烏丸丸太町 徒歩5分)

拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家別邸の遺構で、茶室として江戸時代後期に建てられました。

公開日：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 ※諸事情により参観休止の場合あり。
参観料 300円(高校生以上)

貸切利用：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます(公開日除く)。有料
※詳細はホームページをご参照ください。

京都御苑情報館

中立売休憩所に隣接する新施設。京都御苑のジオラマ模型など御苑全体の歴史や自然を紹介しています。

開館時間：9:00～16:30



御苑ジオラマ模型など展示

休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのお土産物も多数揃えています。

中立売休憩所(『京都御苑 檜垣茶寮』)

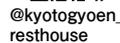
営業時間：9:00～16:30

京都御所前に位置し、御苑の木々に囲まれた「森の休憩所」。中立売駐車場に隣接し、京都御所参観へのアクセスは抜群。セットメニューから軽食、カフェまで木の香る落ち着いた雰囲気の中でお食事ができ、売店「檜垣」では、御所限定のオリジナル商品を多数取り揃えています。

KYOTO-WiFi(無料)も利用可能。



御所の華弁当 右近の橋(刺身付き) (要予約)



@kyotogyoen_resthouse

近衛邸跡休憩所(『SASAYAORI+京都御苑』)

営業時間：10:00～16:30 (月曜日休館)

京都御苑北西部の近衛邸跡にあり、児童公園に隣接。シダレザクラに囲まれゆったり和スイーツでカフェタイムをお過ごしください。KYOTO-WiFi(無料)も利用可能。



清和院休憩所

京都御苑東部の京都仙洞御所や京都迎賓館参観口前に位置し、清和院駐車場からも近接。

富小路休憩所(御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接) 現在無料休憩所として利用できます。
※詳細はホームページをご参照ください。

運動施設

富小路テニスコート(5面) 有料

富小路広場(6面) / **今出川広場**(3面) 有料
軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。

申し込み：(一財)国民公園協会京都御苑

駐車場

中立売駐車場(乗用車・バス併用/乗用車131台・バス16台)
利用時間：乗用車 7:00～20:00 (24時間出庫可)
バス 8:00～17:00

料金：乗用車 800円(3時間まで)
当日最大料金 1,200円
バス 2,000円(3時間まで)

●夜間のバス利用について
利用時間：入庫 17:00～20:00 出庫 翌朝8:00まで
料金：1泊 3,000円

清和院駐車場(乗用車専用/81台)
利用時間：7:00～20:00 (24時間出庫可)
料金：800円(3時間まで)
当日最大料金 1,200円
※詳細はホームページをご参照ください。

京都御苑Instagram/Twitterで最新情報をチェック!



@kyotogyoen_info



@gyoen_info

* 京都御苑における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

■ 苑内のご利用に当たり次の予防対策にご理解、ご協力お願いいたします

- ・マスク着用、咳エチケット
- ・手洗い、手指の消毒
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・密集回避のためレジャーシートを使用する際は、人との距離を十分に保つ



会員募集(2023年度)のお知らせ

2023年度(2023年1月～12月)の国民公園協会京都御苑会員を募集します。

■ 年会費

- 普通会員…………… 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体)…………… 10,000円以上

- 会員特典
- 1 京都御苑ニュースの送付
 - 2 申し込み年度の葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈(ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
- 申し込み・お問合せ先
(一財)国民公園協会京都御苑



編集後記

明治初め大内保存事業により京都御苑が形作られてから2023年で140年、戦後、国民公園として再生して76年。かつて天皇や公家の居所であった御所や御苑に対する京都の人々の確かな想いが、御苑を見守り支え続けてきたのだろうと思う。(発行人 池田善一)

企画・発行/お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3
TEL 075-211-6364

編集 白川書院 **監修** 環境省京都御苑管理事務所



注釈配合率70%再生紙を使用しています